

# 平成 29 年度 危機管理士 1 級セッション レポート

2018 年 2 月 18 日 (日) 15:00~16:30 明治大学 アカデミーコモン 10 階 310B

2018 年 2 月 18 日の第 40 回定例研究会・シンポジウムと同時開催にて、  
日本危機管理士機構「危機管理士セッション」を実施しました。  
危機管理士 1 級取得者 4 名の方に発表していただきました。

## 「高齢者の危機管理」

井上 隆史様 (安心ソリューション 消防・防災アドバイザー)



高齢者向け傾聴ボランティアの方々への講演実施内容についてご報告いただきました。高齢者のお話を聴かれるボランティアの方々自身の”心身の健康管理”という、個人レベルの危機管理について、ゲーム・川柳など頭の体操アクティビティや、ご自身が消防隊員をされていた際の危機管理エピソード、そして、ご自身が常日頃より大切にされている格言なども織り交ぜながらお話頂きました。今後の自身の心身の健康という側面の危機管理のあり方について考えさせられる、実践的な学びの機会となりました。

## 「祭りにおける危機管理の一考察」

藤倉 忠光様 (一関市役所)



日本の数々の伝統的な祭りにまつわる事故の発生事例及び、祭りをより安全に行った上で、後世に祭りを伝承するための考察を、危機管理士の視点から行っていただきました。

リスクマネジメントについて、祭りにおける特殊性や危機要因分析・防衛策についての考察について、分かり易い説明を行っていただくと共に、それらを通して、伝統文化や、観光資源として地域経済にも大きく影響を及ぼす祭りをより安全に後世に伝承していきたいという想いをお伝えいただきました。祭りの安全な実行・伝承、というテーマを通し、危機管理の視点の重要性を考えさせられる機会となりました。

## 「M市災害対策本部事務局の運営に係る図上訓練について（参加報告）」

黒目 剛様（SOMPO リスクケアマネジメント株式会社）



岩手大学地域防災研究センター 越野客員教授が主催されている、「平成 29 年度防災危機管理エキスパート講座（総合実習コース）」を受講された際の報告をしていただきました。仮想 M 市の災害対策本部の組織体制の中で役割に分かれて図上訓練を行い、黒目様は、ご自身が「情報班」として参加された中での気付きをお伝えくださいました。“情報収集は「目的」に沿って行われなければならない” “情報は評価・分析を行った上で処理しなければならない”、という気付きのメッセージが大変印象的でした。危機管理において、実践的な訓練の重要性を考えさせられる機会となりました。

## 「地下水を利用する自立・分散型給水装置「地下水膜ろ過システム」による国土強靱化への貢献」

渡辺 愛彦様（株式会社ウェルシィ）



ご自身が常勤顧問を勤められているウェルシィ株式会社にて取り組まれている、「地下水膜ろ過システム」について、システム導入事例やメリット、また、危機管理の視点での重要性をお話いただきました。東日本大震災、熊本地震等実際の自然災害時の公共水道断水に際した病院や住民など様々な場面でのご提供事例についてご紹介頂き、システムの導入数を増やすことによって未来の自然災害の防災・減災に貢献すると共に、官民が協力しシステムのネットワーク化を進めることにより、災害に強い国づくり及び国土の強靱化に貢献する、という思いの込められたご発表でした。

以上